

サマーセミナー2006報告

山下 淳¹⁾, 村上 和人²⁾, 岩橋 政宏³⁾

1) 静岡大学 2) 愛知県立大学 3) 長岡技術科学大学

2006 年度のサマーセミナーは、8 月 31 日～9 月 1 日の 2 日間、群馬県利根郡みなかみ町の水上温泉 松の井ホテルにおいて開催された。学生の発表は若葉研究会 33 件、研究討論会 2 件の合計 35 件であり、それに加えてチュートリアルセッションでは講師の先生 2 名に特別講演をお願いした。参加者数は企業 7 名、大学教員 18 名、学生 43 名の合計 68 名であった。以下、セミナーの概要について述べる。

1. はじめに

第 15 回目となる今回のサマーセミナーは、群馬県水上温泉において、8 月 31 日から 9 月 1 日の 2 日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催で開催されたサマーセミナーとしては、2004 年日光、2005 年北海道支笏湖温泉に続き、今回で 3 回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すると同時に、若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）の交流、両学会の研究室や研究者同士の交流を図ろうとするものである。

2. 開催準備と実施形態

2005 年 10 月から企画を開始し、両学会で検討を重ねた。以下に示す企画委員会を設置し、村上和人企画委員長のもと、ローカルアレンジメントについては岩橋政宏幹事、その他準備については山下淳幹事が中心となっていた。

サマーセミナー2006 企画委員会（敬称略）

画像応用技術専門委員会側

- ・ 山下 淳（静岡大学、幹事）
- ・ 中村 明生（東京電機大学、委員）
- ・ 渋谷 久恵（日立製作所、委員）
- ・ 中野 宏毅（IBM、委員）
- ・ 菅野 純一（ファースト、委員）

メディア工学研究会側

- ・ 村上 和人（愛知県立大学、企画委員長）
- ・ 岩橋 政宏（長岡技術科学大学、幹事）
- ・ 貴家 仁志（首都大学東京、委員）
- ・ 長尾 智晴（横浜国立大学、委員）
- ・ 長谷山 美紀（北海道大学、委員）
- ・ 佐藤 美恵（宇都宮大学、委員）
- ・ 古藤 晋一郎（東芝、委員）

優秀な若葉研究会での発表者に贈られる優秀発表賞については、11 名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った。昨年度と同様、審査委員会のメンバー全員がすべての発表を聴講

することで公正かつ平等な審査を行った。

優秀発表賞審査委員会（敬称略）

代表会委員

- ・ 村上 和人（愛知県立大学、企画委員長）
- ・ 山下 淳（静岡大学、幹事）
- ・ 金子 俊一（北海道大学、画像応用技術専門委員会代表）
- ・ 貴家 仁志（首都大学東京、メディア工学研究会代表）
- ・ 奥水 大和（中京大学、画像応用技術専門委員会代表）

審査委員（50 音順）

- ・ 奥平 雅士（武蔵工業大学）
- ・ 春日 正男（宇都宮大学）
- ・ 久野 義徳（埼玉大学）
- ・ 棚澤 信（旭硝子）
- ・ 角田 興俊（東京電機大学）
- ・ 外村 佳伸（NTT）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数

参加者数は、企業 7 名、大学教員 18 名、学生 43 名の合計 68 名（男性 58 名、女性 10 名）であり、過去最多となった。また、今回は海外からの参加者もあった。

3.2 チュートリアルセッション

今年度は「画像の認識・伝送と映像コンテンツ」というテーマのもと、2 名の講師の方に特別講演をお願いした。

初日には、佐藤隆博士（NTT サイバーソリューション研究所）に「映像を便利に扱いやすくする技術」という題目で、映像を扱いやすくするインデックス技術やインタフェース技術に関してご講演頂いた。カット点からはじまり、カメラワークやテロップ、音声・音楽などを検出し、メタデータを自動作成する技術や、直観的に映像を操作できる技術、また映像を通じて人と人とをつなぐコミュニティ支援技術などを軽いタッチで面白おかし

くご紹介頂いた。会場から常に笑いが巻き起こる非常に楽しいご講演であった。

2日目には、松元明弘教授（東洋大学）に「ロボカップにおける画像と制御」と題して、ロボカップ実機部門、中でも中型機リーグにおいて、画像情報処理と機械制御の関連付けについて概説頂いた。中型機リーグのレギュレーション、全方位画像を用いた自己位置計測技術、2006年に上位を独占したドイツのチームが使っている自己位置推定技術についてご紹介頂くとともに、画像に関わる問題が多く残されている現状をご解説頂き、今後の展開と新規参入者のためのヒントを示して頂いた。これからの研究開発を担う若い人達をエンカレッジする意味で、研究に対する心構えやご自身の経験談などを語って頂き、非常にためになるご講演であった。

なお、座長はそれぞれ長谷山美紀氏（北海道大学）及び梅田和昇氏（中央大学）にお願いした。

3.3 若葉研究会および研究討論会

学生の発表は若葉研究会33件、研究討論会2件の合計35件であり、発表件数は過去最多タイとなった。座長は、藤原孝幸氏（中京大学）、岩橋政宏氏（長岡技術科学大学）、野村安國氏（ファースト）、渋谷久恵氏（日立製作所）、村松正吾氏（新潟大学）、佐藤美恵氏（宇都宮大学）にお願いした。

異なる2つの学会からの参加者が聴衆であったため、普段とは違った面白い視点からの質問やコメントが多く、発表者・指導教員ともに良い刺激を受けた。

また、最終日には優秀発表賞の発表が行われ、以下の4名の受賞者が表彰された（図1）。

優秀発表賞受賞者（発表番号順、敬称略）

鈴木 優輔（静岡大学）

黒岩 圭二郎（首都大学東京）

伊藤 泉（東京都立大学）

小路 裕史（愛知県立大学）

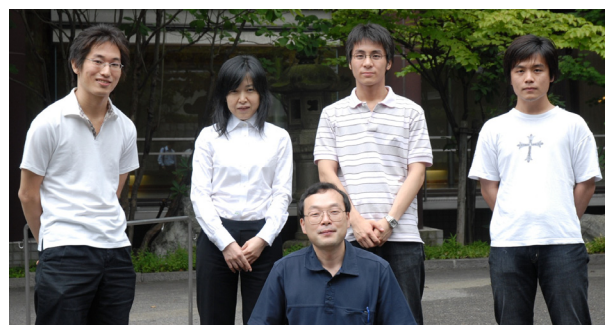


図1 優秀発表賞受賞者（後列左から小路氏、伊藤氏、黒岩氏、鈴木氏）と村上企画委員長（前中央）

3.4 懇親会

夕食、露天温泉入浴に引き続き、座敷部屋において懇親会を行った。部屋割りと同様、なるべく知り合いでない方同士が一緒になるようにしたことで、様々な人達と話をする機会を設けた。親密な雰囲気の中、特に企業からの参加者と若葉研究者との交流が行われ、参加者同士で有意義な情報交換が行われた。また、セミナープログラムで発表・講演をしない参加者による自己紹介がなされた。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも、楽しい雰囲気の中に無事終了した（図2）。料金設定や会場準備等で親身に御対応頂いた松の井ホテル長瀬史朗様をはじめサマーセミナー準備にあたりお世話になった皆様には、紙面を拝借して感謝の意を表したい。

次回サマーセミナーは、梅田和昇企画委員長（中央大学）のもと、中村明生幹事（東京電機大学、画像応用技術専門委員会側）、村松正吾幹事（新潟大学、メディア工学研究会側）を中心に準備を行い、2007年8月～9月に開催する予定である。



図2 サマーセミナー2006 参加者集合写真（2006年9月1日 松の井ホテル玄関において撮影）